

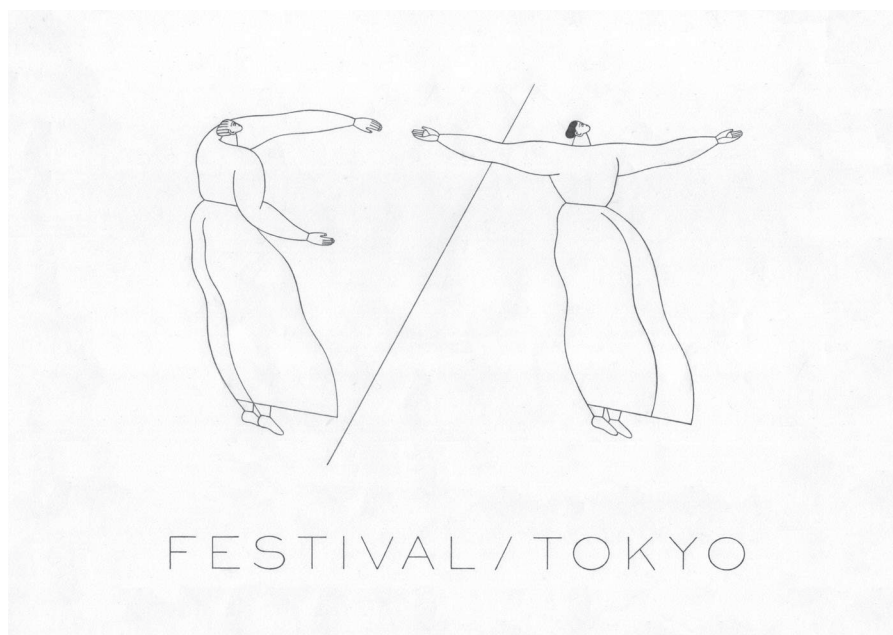


人と都市から始まる舞台芸術祭

フェスティバル/トーキョー19

2019年10月5日[土] → 11月10日[日] 37日間

東京芸術劇場、あうるすぽっと、シアターグリーン、
トランパル大塚、豊島区内商店街 ほか



フェスティバル/トーキョー（以下F/T）は、同時代の舞台芸術の魅力を多角的に発信し、社会における芸術の新たな可能性を追究する都市型フェスティバルです。

2009年の開始以来、国内外の先鋭的なアーティストによる、演劇、ダンス、音楽、美術、映像等のプログラムを、東京・池袋エリアを拠点に実施。F/Tでしか出会えない国際共同製作をはじめ、劇場並びにまちなかでの上演、世界各地の新しい波の紹介、市民参加型の作品など、多彩な体験の場を生み出しつづけてきました。2016年からは東京芸術祭の一部として、幸福な出会いに満ちた、よりジャンル横断的な創作を紹介することに集中しています。

今回、通算12回目の開催となるF/T19は「からだの速度で」をテーマに、2019年10月5日（土）から11月10日（日）までの37日間にわたり、都市でこそ可能な創造と祝祭のかたちを追究します。

広報に関するお問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 広報：小倉明紀子、神永真美、岡崎由実子
TEL：03-5961-5202 FAX：03-5961-5207 MAIL：press@festival-tokyo.jp
〒171-0031 東京都豊島区目白5-24-12 旧真和中学校4階



FESTIVAL / TOKYO

／ ディレクター 挨拶 ／

F/T19 からだの速度で

からだの速度というものがあります。

わたしたちはこの数世紀（または遙か古代から）、速さを求めてきました。いかに速く移動するか、いかに早く知るか、いかに早く手に入れるか。その欲望の絶え間ない追求の結果、高速化・効率化が進み、生活が便利になったのは間違いありません。

しかしその一方、ますます加速する世界に対して、からだの悲鳴を上げているのも確かです。この数年にかぎってみても、情報の速度はさらに上がり、つられて感情のレスポンスだけは一瞬で噴き上がるようになったけれど、それに比べて、わたしたちのからだの速度は、おそらくほとんど変わっていません。物理的・物的なからだには、移動するにも、成長するにも、やっぱりかかる時間があります。

では遅くすればいいのか。そんな単純な話でもないはずですが。とくにこの東京という巨大都市で、すべてをスローにしようというのは、それはそれでナンセンスです。そもそもわたしたちのからだの速度も一様ではありません。速いときもあれば遅いときもある。幼いからだもあれば老いたからだもある。そこにさらに、人ではないもの、からだのないものの速度が加わって、無数の速度のバリエーションとグラデーションの共存する複合体として、この巨大都市はある。

パフォーミングアーツは、物体として残る作品をつくるジャンルではないけれど、からだの速度で、からだから生まれてくるものを通して、わたしたちの生を見つめます。つかのまでも、そんなパフォーミングアーツによって、都市を構想できないものか。フェスティバルはそのための時間です。

ディレクター 長島 確
共同ディレクター 河合千佳



ディレクター 長島 確 Kaku Nagashima

立教大学卒。字幕オペレーター、上演台本の翻訳者として演劇に関わる。
その後、日本におけるドラマツルクの草分けとして、さまざまな演出家や振付家の作品に参加。
東京藝術大学音楽環境創造科特別招聘教授。



共同ディレクター 河合千佳 Chika Kawai

武蔵野美術大学卒。劇団制作、企画製作会社勤務、フリーランスを経て、
2007年NPO 法人アートネットワーク・ジャパン (ANJ) 入社、川崎市アートセンター準備室配属。
2012年フェスティバル/トキョー実行委員会事務局。2015年より副ディレクターを経て現職。

／ 目 次 ／

1 ご挨拶

主催プログラム

- 2 『移動祝祭商店街』 パフォーマンスデザイン：セノ派(舞台美術家コレクティブ) ■アートプロジェクト／パフォーマンス
- 3 『オールウェイズ・カミングホーム(仮)』 演出：マグダ・シュベフト ■演劇
- 4 『ファーム』 演出：キム・ジョン 作：松井周 ■演劇
- 5 香料SPICE『新丛林 ニュー・ジャングル』 コンセプト・演出・出演：香料SPICE ■映像／音楽／パフォーマンス

トランスフィールド from アジア

- 6 ^{サンド アイ ル}『Sand (a) isles』 演出・設計：JK・アニコチェ×山川 陸 ■アートプロジェクト
- 7 ^{バンブー トーク プ ニン}ファンラオ・ダンスカンパニー『Bamboo Talk』『PhuYing』 振付：ウンラー・パーウドム、ヌーナファ・ソイダラ ■ダンス
- 8 ^{ツー ツー ツー}『To ツー 通』 企画・出演：オクイ・ララ×滝 朝子 ■レクチャー・パフォーマンス
- 9 『やわらかなあそび』 演出・出演：谷口暁彦 ■映像／音楽／パフォーマンス
- 10 トーク
- 11 ^{ノーウェア・オアシス}『NOWHERE OASIS』 コンセプト・ディレクション：北澤 潤 ■アートプロジェクト
- 12 Hand Saw Press『ひらけ！ガリ版印刷発信基地』 ディレクション：Hand Saw Press ■アートプロジェクト
- 13 新作未定 振付・演出：神村 恵 ■ダンス
- 14 ドキュメント『Changes』シーズン2 ディレクション：ドキュメント ■映画
- 15 研究開発
- 17 教育普及

連携プログラム

- 18 連携プログラム

その他情報

- 21 チケット情報
- 22 フェスティバル／トーキョー実行委員会・事務局クレジット
- 23 開催概要
- 26 お問い合わせ

／ ご挨拶 ／

本年も、フェスティバルトーキョー（F/T）という日本最大級の国際的舞台芸術の祭典を、豊島区で開催できることに心から喜びを感じております。

現在、豊島区は「東アジア文化都市2019豊島」として、中国の西安市、韓国の仁川広域市と共に、文化芸術を通じた交流を進めております。その柱は「マンガ・アニメ」「祭事・芸能」そしてF/Tに代表される「舞台芸術」です。さらに本年11月には新しくHareza池袋に豊島区立芸術文化劇場（愛称「東京建物 Brillia HALL」）がオープンし、国際アート・カルチャー都市づくりが加速してまいります。「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」としてますます磨きがかかる豊島区にぜひご期待ください。

最後になりましたが、開催にあたり、ご尽力、ご協力いただいた、関係者の皆様、地元の商店街、企業、団体の皆様に衷心より御礼申し上げます。

フェスティバルトーキョー名誉実行委員長
豊島区長 高野 之夫

F/Tは2009年のスタートから、過去11回において305作品を上演し、併せて69万人を超える観客、参加者の皆さまにお集まりいただきました。

12回目となるF/T19では、アジアの舞台芸術シーンを牽引するアーティストや日本との国交100周年を迎えるポーランドの若手アーティストとの国際共同製作に加え、国内・海外の様々なアーティストの作品を紹介いたします。また、オープニングプログラムを豊島区内の3つのエリアの商店街で展開し、より地域の皆さまとの協働をはかって参ります。

このフェスティバルの開催を通じて、日本博、東アジア文化都市2019豊島、東京芸術祭といった大きな枠組みとも連携しながら、東京から新しい価値を世界に向けて創造・発信するとともに、地域や国境を超えた国際的な文化交流に貢献することを目指して精進してまいります。

開催にあたり、文化庁、国際交流基金アジアセンター、ポーランド芸術祭2019、ご協賛企業ならびに地域の各団体をはじめ、多大なご支援・ご協力をお寄せくださっている皆様はこの場をお借りしてあらためてお礼申し上げます。

フェスティバルトーキョー実行委員長
公益財団法人新国立劇場運営財団 顧問、アサヒビール株式会社 社友 福地 茂雄

フェスティバルトーキョーは、今年も東京芸術祭の一環として開催いたします。

東京芸術祭2019は本年のテーマとして「出会う。変わる。世界。」を掲げております。昨今、人間はAIやロボットに支配されてしまうのかというような議論もありますが、人間にとって大切なもの、本来の人間性や感性、文化や芸術は決してAIやアルゴリズムで支配できるものではないでしょう。ここ東京に世界のさまざまな舞台芸術が集い、人と人とが出会い、互いの感性を刺激しあうことで、多様で豊饒な文化をはぐくむ場となれば幸いです。

舞台芸術の多様な表現を発信する秋の東京に、ぜひご来場ください。

東京芸術祭実行委員会
実行委員長 近藤 誠一

『移動祝祭商店街』

パフォーマンスデザイン：セノ派（舞台美術家コレクティブ）

10/5 (Sat) ~ 10/6 (Sun)

トランパル大塚、豊島区内商店街（池袋本町エリア、大塚エリア、南長崎エリア）

アートプロジェクト／パフォーマンス



Photo: Ryosuke Kikuchi

「まち」を積み込み、「みち」を行く
舞台美術家が手がける山車パフォーマンス

今年のF/Tの幕開けを飾るのは、小劇場をベースに活躍する舞台美術家たちで結成されたコレクティブ「セノ派」による、東京の「まち」と「みち」に着目したプロジェクト。

広場を中心に広がるヨーロッパの都市に対し、道に沿って発展する日本のまち。その最小単位ともいえる地域商店街を、舞台美術家と振付家らのチームが訪れ、そこでの交流やリサーチをもとに、山車（＝移動する商店街）をつくる。商店街の過去、現在、未来を詰め込み完成した山車は、各会場での練り歩き、イベントの後、さらに移動し大塚駅前の広場、トランパル大塚に集結。各商店街の人々、見物人らも一堂に会するなか、山車を中心としたパフォーマンスが行われる。街とその暮らしを凝縮させた山車は、都市の日常の風景にあらたな眼差しを向け、物語を紡いでいくための契機ともなるはずだ。

- ＼見どころ／.....
1. 豊島区内の商店街に着目し、まつり／コミュニティの本質を再発見するプログラム
 2. 舞台美術家で結成されたセノ派が商店街に滞在し、地域の特徴を取り入れた特別な山車をつくる
 3. 完成した山車はお披露目の練り歩き、イベントを経て、地元を出発、大塚駅前の広場・トランパル大塚に集結。ここでも山車を中心とした風景を契機にしたパフォーマンスを上演する

10/5 (Sat)

10/6 (Sun)

※会場、スケジュールなどの詳細は決まり次第、F/T公式HPにて発表します。

参加無料・予約不要

雨天決行、荒天中止

オープニングプログラム主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、フェスティバル／トーキョー



特別協力：池袋本町商店会、南大塚ネットワーク



Photo: Ryosuke Kikuchi

セノ派 Sceno-ha

舞台美術家コレクティブ

舞台美術家として活躍する杉山 至、坂本 遼、佐々木文美、中村友美により、F/T19のオープニング企画を機に結成されたコレクティブで、戯曲や俳優、演出を前提にするのではない、舞台美術を起点とした場面、情景の創造にかかわるプロジェクトに取り組む。「セノ」とは、場面や情景、舞台美術を表す「セノグラフィー」に由来する。

杉山 至 Itaru Sugiyama

舞台美術家

国際基督教大学在学中より劇団青年団に参加。2001年度文化庁芸術家在外研修員としてイタリアで研修。演劇から、ダンス、ミュージカル、オペラまで、ジャンルを問わず幅広く活躍、舞台美術ワークショップや劇場のリノベーションも手がけている。カイロ国際演劇祭ベストセノグラフィーアワード2006、読売演劇大賞最優秀スタッフ賞（14年）受賞。

『オールウェイズ・カミングホーム（仮）』

演出：マグダ・シュペフト テキスト&ドラマトゥルク：ウカッシュ・ヴォイティスコ ドラマトゥルク：滝口 健

11/8 (Fri) ~ 11/10 (Sun)

東京芸術劇場 シアターイースト

演 劇



未来のユートピアってどんな場所？

国境、ジャンルを超えて編まれる劇場体験

F/T15『ポーランド演劇の現在形』にも登壇した、若手演出家マグダ・シュペフトが取り組むのは、日本・ポーランド両国のスタッフ、キャストと共に、「ユートピア」を劇場に出現させること。遠い未来にあって、科学技術と距離を置き、自然との絆を保ち続ける人類の末裔の生活と文化を、詩や戯曲、歌、地図、習慣に関するレポートなどからなる「民俗学的資料」として発表した、アーシュラ・K・ル＝グウィンが『オールウェイズ・カミングホーム』のアイデア、手法を参照し、環境の変動やテクノロジーの進化の先にある、未来のユートピア像を探っていく。

これまでも映像や音楽、ドキュメンタリー要素を組み合わせるなど、従来の演劇の枠組みを超えた作品を発表してきたシュペフト。今回のクリエーションでは、ドラマトゥルク、俳優、ダンサーに加え、振付家、作曲家、舞台美術家、映像作家など、多彩でユニークな専門家が参加する「チーム」体制で、映像、音、振付などを交えた唯一無二の舞台空間を創造する。日本、ポーランドでのリサーチも経て深められた人類学的洞察は、どのように私たちの前に差し出されるだろう。

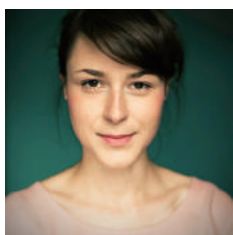


Photo: Justyna Sinkowska

マグダ・シュペフト Magda Szpecht

演出家

1990年ポーランド生まれ。ヴロツワフ大学でジャーナリズムとソーシャル・コミュニケーションを学んだ後、グラクフ国立演劇大学に入学、演出活動を開始。映像やドキュメンタリー、ビジュアルアート、ダンスの要素を取り入れるなど、従来の演劇の枠組みを問う作品づくりを行う。代表作に『私を愛したイルカ』(14)、『シュペルト。12人の演奏家によるロマンティックな第一弦楽四重奏』(16)、『捨てなかったもの』(19)。

見どころ／.....

1. 欧州演劇界の若き鬼才、マグダ・シュペフトの演出作品が日本初上陸
2. 『ゲド戦記』でも知られるSF作家、アーシュラ・K・ル＝グウィンが文化人類学的なアプローチで創作した『オールウェイズ・カミングホーム』のアイデア、手法をもとに、未来のユートピア像を探る
3. 日本、ポーランドから集結したクリエイティブチームで、演劇、ダンス、インスタレーション、ドキュメンタリーの要素などを取り入れたジャンル横断的な創作を行う

11/8 (Fri) 19:00

11/9 (Sat) 15:00 ★

11/10 (Sun) 13:00

★＝終演後、ポスト・パフォーマンストークあり

受付開始は開演の1時間前、開場は30分前

上演時間：約90分（予定）

上演言語：日本語・英語

一般前売：3,500円

当日：4,000円

学生：2,300円

ほか、各種割引券あり

自由席（整理番号つき）

国際共同製作：フェスティバル/トーキョー、アダム・ミツケヴィチ・インスティテュート、TR ワルシャワ劇場

特別協力：ポーランド広報文化センター

後援：駐日ポーランド共和国大使館

このプログラムは、日本・ポーランド国交樹立100周年記念事業に参加しています。

『ファーム』

演出：キム・ジョン 作：松井周

10/19(Sat)～10/20(Sun)

あうるすぽっと

演劇

韓国演劇の新世代がしなやかに斬りこむ
生命とテクノロジー、人間の物語

俳優、演出家、作家、スタッフが集い、あらたな舞台言語の創出を目指すコレクティブ「プロジェクト・ホワイル」のメンバーで、韓国演劇界の新世代として注目を集める演出家、キム・ジョン。猫や学校の彫像が親殺しの少年のもとを訪れるコ・ヨノクの『お客さんたち』(17)は、韓国評論家協会「今年の演劇ベスト3」、韓国演劇協会「今年の演劇ベスト7」に選ばれ、鳥の演劇祭で来日公演も行っている。

大胆な演劇的空想力とユーモアを持って現代社会の課題に真摯に向き合う彼が、今回、自国の俳優たちと共に取り組むのは、松井周の戯曲『ファーム』。2014年に松井が主宰する劇団サンプルで上演された同作は、人工生命や再生医療技術が発達した近未来の家族、男女、親子の物語。近親者による遺伝子操作、体内での臓器培養……と、タブーを逸脱しながら人間の本質を露わにしていく戯曲の世界観が、韓国演劇の重鎮ハン・テスクのもとで学んだキムの緻密なテキスト解釈、ポップで柔軟な感性によって、どのような表情を見せるのか、期待が高まる。

- ＼見どころ／.....
1. 韓国の新進気鋭の演出家キム・ジョンが東京初上陸
 2. 再生医療の進化の中で、生命観の見直しを迫られつつある現代。家族のあり方をあらためて問う松井周の『ファーム』を韓国人キャストで上演
 3. 韓国演劇界の重鎮ハン・テスクのもとで学んだキムの、緻密なテキスト解釈、ユニークで大胆な演出が松井周戯曲のあらたな魅力を引き出す

10/19(Sat) 13:00/18:00

10/20(Sun) 13:00

受付開始は開演の1時間前、開場は30分前

上演時間：120分(予定)

上演言語：韓国語上演(日本語字幕つき)

一般前売：3,500円

当日：4,000円

学生：2,300円

ほか、各種割引券あり

全席指定

助成：アーツカウンシル・コリア



Arts Council Korea



キム・ジョン Kim Jeong

演出家

作家、演出家、俳優、スタッフが集い、あらたな舞台言語の創造を目指すコレクティブ「プロジェクト・ホワイル」のメンバー。ハン・テスクのもとで学んだ後、緻密な脚本解釈と独創的なスタイルを両立させる演出家として活躍。2017年ドンガ・ドラマアワード新人演出家賞、2018年ドゥサン・アーティストアワードパフォーマンス部門受賞。

香料SPICE『新丛林 ニュー・ジャングル』

コンセプト・演出・出演：香料SPICE

10/18 (Fri) ~ 10/20 (Sun)

東京芸術劇場 シアターウエスト

映像／音楽／パフォーマンス



エレクトロニック×ポップ、東洋×西洋
洗練されたミックスを体感する

F/T17のアジアシリーズでの特集など、現代中国カルチャーに注目し続けてきたF/Tが、杭州を拠点に活動するサイケデリック・エレクトロニックグループ、香料SPICEを初招聘。設立メンバーのチェンチェンチェンとアメリカ人ミュージシャン、イーライ・レヴィによるミステリアスなサウンドは、実験的なエレクトロニックとポップミュージック、東洋的感性と西洋文化をミックスしたもので、チェンチェンチェンが書く哲学的な歌詞も特色のひとつ。チェンチェンチェンは、中国美術学院でインターメディアを専攻したアーティストでもあり、これまでもインスタレーションやパフォーマンス作品を発表してきた。彼が演出するライブ空間での体験は、単なる音楽ライブ以上のものとなるはずだ。



Photo: Wang Qing

香料SPICE

サイケデリック・エレクトロニックグループ

2012年中国・杭州で設立。哲学的な歌詞とマルチメディアを使ったライブパフォーマンスで注目される。現在は設立者のチェンチェンチェンとアメリカ出身のイーライ・レヴィとの二人組で活動。チェンチェンチェンは中国美術学院本科でミクストメディア、修士でインターメディアを学び、現在は首都師範大学哲学科博士課程に在籍。レヴィはアレンジャーとしても活躍中。

\ 見どころ /

1. 中国・杭州を拠点に活動するサイケデリック・エレクトロニックグループ「香料SPICE」の初来日公演
2. 香料SPICEは、エレクトロニック・ミュージックのネット配信番組『即刻電音 (Rave Now)』でトップ10入りを果たす
3. 今作は自著のSF漫画『New Jungle』の舞台化。マルチメディアで活躍する香料SPICEが描く近未来は、観客の視覚、聴覚を揺さぶる
4. 驚異のベストセラー『三体』のヒューゴー賞受賞、SF映画『流浪地球』の大ヒットなど、近年、中国ではSFブーム

10/18 (Fri) 19:30 ★

10/19 (Sat) 16:00

10/20 (Sun) 16:00

★=終演後、ポスト・パフォーマンストークあり

受付開始は開演の1時間前、開場は30分前

上演時間：60分

一般前売：3,500円

当日：4,000円

学生：2,300円

ほか、各種割引券あり

自由席（整理番号つき）

トランスフィールド from アジア

舞台芸術が持つフィクションの力は、都市にどのように働きかけるのでしょうか。2018年からのフェスティバル/トーキョーは、自らを「人と都市から始まる舞台芸術祭」と称し、さまざまなプログラム＝場を東京のまちなかに組み込んでいます。

そのひとつが新シリーズ「トランスフィールド from アジア」。F/T14以後行われてきた国別の特集「アジアシリーズ」を、国や分野の境界が融解するアジア全体の状況を取り上げるものとしてアップデートしたF/T18「トランスフィールド」での出会い、協働作業は、アジア発の横断的な文化の可能性をあらためて実感させるものでした。この新シリーズでは、その経験をさらに深め、観客の皆さんと共に、これからのアジアの文化を築く原動力となる場を目指しています。

共催：国際交流基金アジアセンター

ASIAcenter
JAPAN FOUNDATION

『Sand (a)isles』

演出・設計：JK・アニコチェ × 山川 陸

10/28 (Mon) ~ 11/10 (Sun) ※予定

F/T 主要会場内など

アートプロジェクト



見どころ

1. フィリピン・マニラを拠点に活動し、アジアで注目されるアーティストのJK・アニコチェと、日本の若手建築家の山川陸が共同クリエイションに挑む
2. 「トランスフィールド from アジア」参加アーティスト達が拠点とする各都市での現地リサーチによって、アジアの都市のリアルな姿を捉える
3. メディアの発行やワークショップを通して、都市と私たちの身体の関係について、新たな視点の獲得を目指す

※会場、スケジュールなどの詳細は決まり次第、F/T公式HPにて発表します。

言語：日本語、英語

私が変われば都市が変わる

あたらしい過ごし方のための体験型パフォーマンス

マニラを拠点に活動するパフォーマンス・メイカーの、JK・アニコチェと、若手建築家の山川陸が、マニラ、ピエンチャン、クアラルンプール、東京でのリサーチを経て、体験型のパフォーマンスなどを展開する。「トランスフィールド from アジア」のベースともなるこのプロジェクトは、どこかへ向かうための「通路」で構成される日本の都市空間に、停泊や逗留ができる「島」を見出そうとする。見慣れた都市の風景、そこで過ごす時間は、彼らの眼差しを通じて、どのように変わっていくだろう。

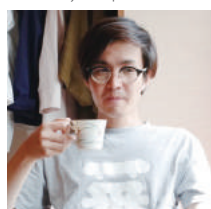


Photo: Gelay Concepcion

JK・アニコチェ JK Anicoche

パフォーマンス・メイカー

マニラを拠点に活動する「シパット・ラウイン・アンサンブル」のアーティストック・ディレクター。身体障害を持つ若者向けのワークショップや読み聞かせの普及など、コミュニティと舞台芸術との関係を軸に幅広く活躍する。



山川 陸 Rick Yamakawa

建築家

1990年生まれ。松島潤平建築設計事務所を経て、東京藝術大学美術学部教育研究助手。建築意匠を介した非言語情報の読み取りに関心として活動する。演劇カンパニー「新聞家」の美術制作、「Whenever Wherever Festival」(18-19)の空間設計も手がける。

ファンラオ・ダンスカンパニー

『Bamboo Talk』『PhuYing』

振付：ウンラー・パーウドム、ヌーナファ・ソイダラ

10/25 (Fri) ~ 10/27 (Sun)

東京芸術劇場 シアターイースト

ダンス



伝統と現代文化が共に生きる

“ラオスに耳を傾ける”ダンスカンパニー

伝統舞踊をベースにヒップホップ、コンテンポラリーダンスに取り組むヌーナファ・ソイダラと、アジアやフランスで数々のヒップホップ公演、バトルに参加してきたダンサー、振付家のウンラー・パーウドムが、2013年にビエンチャンで結成したファンラオ・ダンスカンパニー。ヒップホップと伝統舞踊の要素を共存させた実験的なクリエイションはもちろん、ワークショップの開催やフェスティバルの主催などを通じ、ラオスのダンス・シーンを牽引する彼らが、初の来日公演を行う。

今回の公演で紹介するのは、ブレイクダンスや伝統武術、伝統音楽モーラムを用いたラオス南部の文化を伝える男性デュエット作『バンブー・トーク』と、女性ダンサー3名が伝統舞踊とヒップホップのテクニクを駆使し、現代ラオス女性のリアルを伝える『プニン』の2作品。「ファンラオ」とは、ラオスに耳を傾けるの意。彼らの作品からは、急速な経済成長、近代化の波の中で暮らす人々の姿と、あらたに紡ぎ出される独自のダンス文化の一端が浮かび上がるだろう。



ウンラー・パーウドム Ounla Phaoudom

振付家・ダンサー

ビエンチャンを拠点とする振付家・ダンサー。14歳でラオスのチャムパーサク県からビエンチャンへ移り住み、2004年からラオバンファイ・アソシエーションにてヒップホップダンスを始める。アジアやフランスで数々のヒップホップダンス公演やバトルに参加。



ヌーナファ・ソイダラ Noutnapha Soyda

振付家・ダンサー

ビエンチャンを拠点とする振付家・ダンサー。小学生からラオスの伝統舞踊を学び、数々の賞を受賞。2006年よりヒップホップダンス、コンテンポラリーダンスに触れる。2008年から2019年までフランスに滞在したほか、ベルギー、ルクセンブルク、フランス、マレーシアにてレジデンスを行う。

見どころ /

1. ラオス・ビエンチャンを拠点に活動するファンラオ・ダンスカンパニーの初来日公演
2. 伝統音楽モーラムを用いたラオスの舞踊とHIPHOPを融合した2作品を上演
3. アジアの中でも独自の成長を続けるラオス／舞台芸術の魅力をF/Tが初紹介

10/25 (Fri) 19:30

10/26 (Sat) 14:00

10/27 (Sun) 14:00

受付開始は開演の1時間前、開場は30分前

上演時間：60分

一般前売：3,500円

当日：4,000円

学生：2,300円

ほか、各種割引券あり

自由席（整理番号つき）



ファンラオ・ダンスカンパニー

2013年ラオスの首都ビエンチャンにて、ヌーナファ・ソイダラ、ウンラー・パーウドムによって結成されたダンスカンパニー。ラオスでは初の、伝統とコンテンポラリーの融合を図る実験的でクリエイティブなダンスカンパニーとして、ワークショップの開催、レッスンプログラムの開講のほか、ショーケースの上演やフェスティバルの主催、海外ツアーなども行う。

『To ツー 通』

企画・出演：オクイ・ララ × 滝朝子

11/2 (Sat) ~ 11/4 (Mon)

シアターグリーン BIG TREE THEATER

／ レクチャー・パフォーマンス



日本から故郷へ、故郷から日本へ。
境界を越えるモノたちの物語

マレーシア出身で、移民や移動、アイデンティティをめぐる事象に着目した創作と対話を続けてきたオクイ・ララ。多文化コミュニティにおける制作と作品発表を通して、人と表現の変化を探る滝朝子。共通の関心を持ちつつも異なる地域で、独自の活動を続けてきた二人が、それぞれ強い関わりを持つコミュニティを出会わせた、レクチャー・パフォーマンスを行う。260万人以上の外国人が住み「移民大国」とも言われる日本。彼らが移動させるのはその身体や言葉だけではない。彼らがリサーチの対象としたのは、仕送りや生活用品、贈り物などとして、国境を越えやりとりされる「モノ」。それぞれの背景にある物語を紐解くことで、「国境」や「適応」をめぐる新たな視野が開ける。

- ＼見どころ／.....
1. マレーシア・ペナン出身のオクイ・ララと日本人アーティスト・滝朝子によるレクチャー・パフォーマンスを実施
 2. 日本でも増えつつある“移民”にフォーカスし、観客とともにこれからのアジアにおける共生を考える時間を創出する
 3. 移民コミュニティの人々が、故郷と日本の間でやりとりする「モノ」を通して、「適応」や「境界」について考えを巡らせる

11/2 (Sat) 15:00

11/3 (Sun) 15:00

11/4 (Mon) 15:00

受付開始は開演の1時間前、開場は30分前

上演時間：75分 (予定)

上演言語：日本語、英語、その他

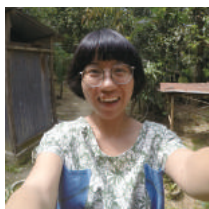
一般前売：3,000円

当日：3,500円

学生：2,000円

ほか、各種割引券あり

自由席 (整理番号つき)



オクイ・ララ Okui Lala

アーティスト

1991年生まれ。ペナン、クアラルンプールを拠点にするアーティスト、カルチャー・ワーカー。ビデオやパフォーマンス、コミュニティとの協働まで、広範囲におよぶ活動を通し、移住背景や翻訳プロセスをリサーチ、アイデンティティについての探求を行う。さいたまトリエンナーレ2016参加アーティスト。ミャンマーと日本の移民、移動、アイデンティティに関するリサーチプロジェクトで、国際交流基金アジアセンターフェローシップを取得。



滝朝子 Asako Taki

アーティスト

1988年生まれ。自己と他者、国や性別などの境界やそこに生まれる交流に着目。近年は移民にまつわる参加型作品や協働プロジェクトを、パフォーマンスや映像、インスタレーションとして発表する。NPO ARDA 事務局長として子供から高齢者までを対象とした創作、鑑賞活動の場づくりを実践。2017年からは社会とアートを考えるコミュニティ Back and Forth Collective として、ジェンダーに関する企画や展覧会も実施している。

Photo: Yu Iwasaki

『やわらかなあそび』

演出・出演：谷口暁彦

11/9 (Sat) ~ 11/10 (Sun)

シアターグリーン BIG TREE THEATER

映像／音楽／パフォーマンス



ここはどこ？ そこにいるのは？

バーチャル空間で軽やかに問われる「境界」

骰子を振るたび、過去に落ちた場所の風景が、面ごとに再生されるリアルタイムシミュレーション『骰子一擲』(18)、巨大な3Dブラウザを、自らのアバターを操作させ閲覧させる『The Big Browser 3D』(16)……機知に富んだ作風で、現実と仮想空間の境界線を再定義し続けるメディア・アーティスト谷口暁彦。その初めての劇場作品が、F/Tで創作、上演される。クッション素材でつくられた子供のための遊び場Soft Playと、現実をシミュレーションするバーチャル空間とを重ね合わせるという本作。そこで自身が操作する谷口のアバターが披露するパフォーマンスとは？ 特定の場所はもちろん身体すら必要としない「上演」への取り組みは、どのような可能性と問いを私たちに投げかけるだろう。

- ＼見どころ／.....
1. メディア・アート、ネット・アート、映像、彫刻などさまざまな形態、手法で作品を発表している谷口暁彦のパフォーマンスがF/Tに初登場
 2. 様々な出来事をシミュレーションする場としてのバーチャル空間を「子供の遊び場」に重ね合わせ、劇場空間に立ち上げる。その時に見える舞台芸術の可能性とは

11/9 (Sat) 13:00/18:00

11/10 (Sun) 16:00

受付開始は開演の1時間前、開場は30分前

上演時間：75分(予定)

上演言語：日本語

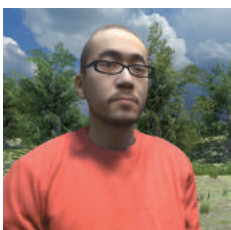
一般前売：3,000円

当日：3,500円

学生：2,000円

ほか、各種割引券あり

自由席(整理番号つき)



谷口暁彦 Akihiko Taniguchi

アーティスト

1983年生まれ。メディア・アート、映像、彫刻、DJなど、さまざまな形態、手法で作品を発表している。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース専任講師。主な展覧会に「SeMA Biennale Mediacity Seoul 2016」(16/ソウル市立美術館)、個展に「超・いま・ここ」(17/CALM & PUNK GALLERY)など。

／ トーク ／

東南アジアで活躍するゲストを多方面から迎え、国や分野の枠組みが混ざり合っていく〈トランスフィールド〉な現状について、参加者と共にシェアする場を設けます。

批評から見る〈トランスフィールド〉

日 程：11/2 (Sat) 18:00~20:00 (予定)

受付開始・開場は開演の30分前

会 場：東京芸術劇場 シンフォニースペース

言 語：日本語、英語逐次通訳つき (予定)

参加費：500円 (予約優先)



ASIAN ARTS
MEDIA ROUNDTABLE

アジア・アーツ・メディア・ラウンドテーブル

アジアのアートシーンで言説を取り扱う批評家、編集者、ジャーナリストのためのプラットフォーム形成を目的とした国際ミーティング。編集者、ライター、プロデューサーのキャシー・ローランドの呼びかけで、2019年5月にシンガポールにて初開催された。

ブルネイのアートシーン

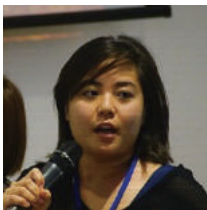
日 程：11/3 (Sun) 18:00~20:00 (予定)

受付開始・開場は開演の30分前

会 場：GLOCAL CAFE Ikebukuro

言 語：日本語、英語逐次通訳つき (予定)

参加費：1,000円 (予約優先、ワンドリンク付き)



登壇者：リサ・アフマド Lisa Ahmad

ロンドン・チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ卒業。ブルネイのアートの発展を目指して、カレイドスコープ・スタジオを立ち上げ、エージェント、現代アートのプラットフォームとして、あらゆるジャンルのアーティストをサポート。近年は展覧会や音楽イベントなども開催している。

東南アジアから見る〈トランスフィールド〉の未来

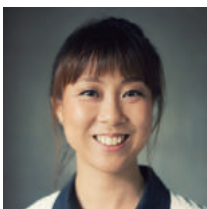
日 程：11/9 (Sat) 18:00~20:00 (予定)

受付開始・開場は開演の30分前

会 場：GLOCAL CAFE Ikebukuro

言 語：日本語、英語逐次通訳つき (予定)

参加費：1,000円 (予約優先、ワンドリンク付き)



登壇者：ササピン・シリワーニット Sasapin Siriwanij

俳優、演出家、プロデューサー。チュラロンコーン大学在学中に演劇活動始める。B-Floor Theatre のメンバーとして国内外で活動。2013年からは演出家として自身の作品を発表する。最近作はIATC2017最優秀女優賞を受賞した『OH! ODE』(17)。多くの国際プロジェクトに携わり、バンコク国際舞台芸術ミーティング (BIPAM) 2018のボード議長も務めている。

ノ ー ウ ェ ア ・ オ ア シ ス
『NOWHERE OASIS』

コンセプト・ディレクション：北澤 潤

アートプロジェクト



見どころ

1. 美術家・北澤潤による、都市の中にどこにもない／ここにしかない「行き場」を出現させるアートプロジェクト
2. ジョグジャカルタ式屋台・アンクリンガンが池袋周辺に複数出現。見慣れた街並みにインドネシアの風景が重なる
3. 日本で暮らすインドネシアの人びとと共に運営される屋台の中で、異質な日常の時間を過ごす

※会場、スケジュールなどの詳細は決まり次第、F/T 公式HP にて発表いたします。

ジョグジャカルタ式屋台と共に出現する
どこにもないオアシス

母国を離れて暮らす人びとの記憶から故郷を再現する『NEIGHBOR'S LAND』(18) など、フィールドワークを重ね、さまざまな人びとと協働しつつ、あらたなコミュニティの創造に取り組む北澤潤。本プロジェクトは、彼が拠点とするインドネシア・ジョグジャカルタでおなじみの「アンクリンガン」を、池袋周辺に出現させることからスタートする。アンクリンガンとは、街に点在するシートに覆われた屋台型商店のことで、内部は外の世界からは隠されている。その中では、コーヒーや軽食を買うだけでなく、店主や周りの客との会話を楽しむなど、目的のないのんびりとした時間が流れている。都市のどこにも属さない「空白」を、池袋周辺に出現させることで、見えてくるものとは一。日本在住のインドネシアの人びとも巻き込みつつ複数箇所にわたって展開するF/T版アンクリンガン。そこは、止まることを知らない都市の時間を生きる私たちにとっての、ここにしかない「行き場」にもなっていくはずだ。



Photo: CULTURE

北澤 潤 Jun Kitazawa

美術家

1988年東京生まれ、ジョグジャカルタ拠点。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。合同会社北澤潤八雲事務所代表、STUDIO BELIMBING ディレクター。フィールドワークを通して「ありえるはずの社会」を構想、さまざまな人びととの協働のもとにその現実化に取り組むプロセスを芸術実践とする。2016年、米経済紙Forbes「30 Under 30 Asia」アート部門選出。

Hand Saw Press

『ひらけ! ガリ版印刷発信基地』

ディレクション: Hand Saw Press

アートプロジェクト

見どころ

1. 建築、デザイン、飲食、編集など得意分野が異なるメンバーで立ち上げた、リソグラフ&オープンD.I.Yスペース「Hand Saw Press」のF/T版が期間限定でオープン
2. 誰でも、自由に自分が伝えたいことを綴る印刷物「ZINE(ジン)」づくりに参加できる
3. 個々の価値観で綴られていくZINEを通し、多様な思考や文化と出会う



Photo: minamiasami

「ZINE」から始める、広がる交流 F/T限定の印刷所がオープン

東京・武蔵小山で、デジタルガリ版印刷機のリソグラフと工具があるD.I.Y.スタジオとして、印刷や木工のワークショップ、ライブや読書会など、場所や道具をまちに開いて活動するHand Saw Press。その運営を担うのは、建築、デザイン、飲食、編集と、多様な分野で活躍するメンバーたち。彼らがF/T会期中の約1か月間、リソグラフ印刷所を東京・豊島区にオープンする。

この印刷所では、誰でも自分が伝えたいことを自由に綴る印刷物「ZINE」をつくることができる。ZINEには交換の文化があり、ここでも居合わせた人同士、訪れた人との交換が可能。ZINEを作り交換することで、自分から能動的に世界とつながり、多様な思考、文化に出会うことができる。さらに、期間中はさまざまなジャンルのアーティストやまちの人々も巻き込んだイベントも開催予定。まちの中に新たに生まれる印刷所から、どんな交流が生まれ、どんな文化が発信されるのか、期待が高まる。

特別協力: 理想科学工業株式会社



Hand Saw Press ハンドソウプレス

リソグラフの印刷機と工具を置き、ワークショップやイベントを行うD.I.Yスペース。建築家の菅野信介(アマラブ)、空間デザイナーの安藤僚子(デザインムジカ)、食堂店主・編集者の小田晶房(map/なぎ食堂)が2018年に武蔵小山でスタートした。

新作未定

振付・演出：神村 恵

豊島区立目白庭園 赤鳥庵

ダンス



『workshop』より ©Shu Nakagawa

見どころ

1. 近年は美術家とのユニットでも活躍する、振付家、ダンサーの神村恵がF/Tに初登場（F/T10公募参加）
2. 音楽は、四谷アート・ステューディウムマエストロ・グワント受賞者（13）の高木生、美術は、京都大学総合博物館企画展『タイムライン 時間に触れるためのいくつかの方法』（19）にも参加した「ミルク倉庫+ココナッツ」
3. 会場は、都会の街並みの中に埋もれるようにたたずみ、伝統と自然という非日常を楽しむことができる目白庭園赤鳥庵

※スケジュール、チケット料金などの詳細は決まり次第、F/T 公式HP にて発表いたします。

身体／音楽／美術／環境のコラボレーションから生まれなおすダンス

「ダンス」を通じ、身体やパフォーマンスをめぐる本質的な命題に向き合い続ける神村恵。近年は特に言葉と動きの関わりに着目、高嶋晋一との「前後」、津田道子との「乳歯」といった美術家とのユニットにおいても、その仕組みを分析、利用する作品を発表してきた神村が、音楽に高木生（tnwh／noobtastic）、美術にアーティストユニット「ミルク倉庫+ココナッツ」を迎え、新作を発表する。パフォーマンスの舞台となるのは、日本庭園に囲まれた茶室。非日常を体感する場でありつつ、天候や光、湿度や温度など不確定な要素に揺らぐ空間で、彼女らが、提示するものとは一。



Photo: Shingo Kanagawa

神村 恵 Megumi Kamimura

ダンサー・振付家

物質としての身体、言語により変容する身体、他者との関係によって動かされる身体など、身体をさまざまな側面から観察、再構築する作品を手がける。近年の主な作品に津田道子とのユニット「乳歯」による「知らせ#2」（17年、ST スポット）、「報せ」（18年、SCOOL）など。

ドキュメント『Changes』シーズン2

ディレクション：ドキュメント

11/2 (Sat) ~ 11/4 (Mon)

池袋HUMAX シネマズ

映画

フィクションとノンフィクションの間から
俳優、演劇、人間を問う

「劇団範由遊泳の主宰・山本卓卓が元所属女優・田中美希恵のダイエットを追う」として、昨年制作、公開されたF/T初の映画作品『Changes』（アップリンククラウドにて配信中）。身体をめぐるイメージを入りに、俳優という存在、演出家と俳優の関係を問い直す実験として演劇界の注目を集めた同作のシーズン2が、いよいよ公開される。

前作以上にフィクションを多用した構成は、演技と現実、創作と生活のはざまを、よりミステリアスかつスリリングに浮かび上がらせる。演劇を一緒につくることができなくなった二人。その関係に変化は訪れるのか。映画を通じた二人のコミュニケーション、俳優、演出、演劇をめぐる問いは、どんな「ラストカット」を迎えるのだろうか。

ドキュメント

「範由遊泳」主宰の山本卓卓のソロプロジェクトとして2012年にスタート。ダンサー、振付家の北尾亘と『となり街の知らない踊り子』(15)を発表、F/T16やシドニーでも上演。『Changes』では初めての映像作品に挑む。現在は、出演者、スタッフもクリエイターとして作品と向き合い、創作段階から有機的な協同作業を行うプロジェクトとして活動する。

- \見どころ/\
1. F/T18で上映／上演され、その後もアップリンククラウドで配信を続ける『Changes』の続編
 2. 役者として、演出家として、創ることと生きること。演劇と映画・創作と生活の狭間を覗き込むフェイクドキュメンタリー
 3. 「Changes」したのは何なのか？誰なのか？そして、それはいつまで続くのか

11/2 (Sat) 13:00
11/3 (Sun) 14:00 / 18:00
11/4 (Mon) 18:00

上映時間：90分 (予定)

上映言語：日本語

一般前売・当日：1,500円

高校生以下：1,000円

※チケットは池袋HUMAX シネマズのみ
取扱い

全席指定

製作：フェスティバル/トーキョー

共同製作：ドキュメント、急な坂スタジオ

／ 研究 開 発 ／

シンポジウム フェスティバル・アップデート 「からだの速度、からだの居場所」

会 場：東京芸術劇場 シンフォニースペース

日 程：10/22 (Tue) 14:00 (予定)

言 語：日本語

参加費：500円



舞台芸術に限らず、この10年でアートフェスティバルが日本各地にひしめくように生まれ、F/Tを取り巻く環境も大きく変化しました。世界各国からの旅行者、移住者も増え、都市・東京を構成する人々の状況も変化しつづけています。F/Tではシンポジウムを、これからの「フェスティバル」や「トーキョー」を考えるためのことばや視点を集め、交換・共有する場と位置づけ、異なる分野の専門家を招き開催します。

人や物が絶え間なく移動し、情報も状況もものすごい速度で更新され続ける現代において、私たちのからだの居場所はどのようにありえるのでしょうか。

公共空間で、他者との関わり合いの中で、個々人に適した環境／居場所を整えることに日々取り組んでいる方々にお集まりいただきます。

ディレクターズ・ラウンジ

会 場：旧真和中学校 音楽室ほか

日 程：6・8・9・12月 各月1回(予定)

参加費：500円(会場による)

※各回定員30名(予約優先)

昨年度より実施しているトークシリーズ「ディレクターズ・ラウンジ」を今年は会期外に開催。ディレクターの長島、共同ディレクターの河合が、いま会いたい、話したい方をゲストに迎え、活動のプロセスや背景、思考に迫ります。

F/Tトレイル

「人と都市から始まる舞台芸術祭」を掲げるフェスティバルが開催されるまちとは、どのような場所でしょうか。また、これからのフェスティバル/トーキョーは、まちとどのような関係を結べるでしょうか。ディレクターが実際にまちを歩き、そのアプローチの一端をWebなどで公開していきます。



若手の創り手向け

未来の舞台芸術の担い手たちが、知識を蓄え、経験を積み、成長していくためのプログラム。

アーティスト・ピット

日程：11/18 (Mon)、19 (Tue)、25 (Mon)、26 (Tue)、29 (Fri)

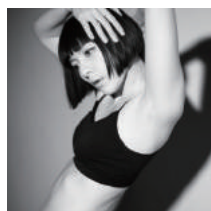
参加費：無料

※参加者は公募から選考により決定いたします。

今年度から次世代のアーティスト育成を目的とした、創り手の鍛錬の場『アーティスト・ピット』を展開します。F/T19ではダンサー・美術家のハラサオリを迎え、身体を使った表現を追究する若手アーティストを対象とした少人数制のディスカッション型ワークショップを実施します。「コンセプトとリサーチ」をテーマに、参加するアーティスト達が、相互批評を重ねながら、互いの作品の精度を高め合うと同時に、彼らの創作に役立つ問題意識の共有の場となることを目指します。



Photo: Nori Edamatsu



©Sylvia Steinhäuser

ファシリテーター：ハラサオリ

ダンサー・美術家。2012年よりベルリンを拠点として作家活動を開始、以来「アフォーダンス」をテーマとして、サイトスペシフィックな空間における即物的身体の在り方を探求している。近年ではダンサーであった実父との生別／死別を扱ったドキュメンタリー作品「Da Dad Dada (ダダッドダダ)」を日本とドイツの二カ国で発表。またその静物的佇まいと動物の躍動感を兼ね備えた身体を活かし、ライブ、MV、TV番組などへも多数出演。2017年度ポーラ美術振興財団派遣海外研修員。東京芸術大学デザイン科、ベルリン芸術大学舞踊学部ソロパフォーマンス専攻修了。

**ゲストコーチ：大谷能生 ※11/25 (Mon)、11/26 (Tue)に参加**

音楽／批評。1972年生。多くのバンドやセッション、舞台芸術の作品に参加。最新のソロアルバムは「Jazz Alternative」(Blacksmoker)。著書に「貧しい音楽」(月曜社)「憂鬱と官能を教えた学校」(河出書房新社・菊地成孔との共著)「平岡正明論」(P-VINE)「平成日本の音楽の教科書」(新曜社)など。山縣太一主宰のカンパニー、オフィスマウンテンでは俳優も務める。

カルチベート・システム

未来の舞台芸術の担い手の育成に賛同してくれる方々とともに、F/Tができることを試していく仕組みです。システムには舞台芸術に関わる若手なら誰でも登録することができます。初年度の昨年は、関係者からの寄付を基に、システムに登録した若い創り手へ約60枚の無料観劇チケットを発行しました。今年も引き続き継続を予定しています。

／ 教育普及 ／

F/T サポーター

フェスティバルの運営をお手伝いしていただくボランティア・プログラム。アーティストやスタッフとともに小道具や大道具と一緒に作成したり、本番当日は会場でお客様をお迎えするなど、フェスティバルの一員として、F/Tを盛り上げる企画を展開。本プログラムのメールニュースには、現在、約500名近くの登録があり、10代から60代までと、幅広い年齢層の方々が活動に参加しています。



ダイアログ・ネクスト

日 程：フェスティバル会期中、土日を中心に9回実施(予定)
対 象：学生(大学生、大学院生、専門学生)

観劇を通して対話を深める学生向けのワークショップ。プログラムの観劇、アーティストとの対話、仲間との感想の共有やワークショップを通して、異なる文化や考えを持つ他者に出会い対話を繰り返すことで、自身の思考を深めることを目指します。



全体監修：中尾根美沙子

青山学院大学社会情報学部プロジェクト准教授／ワークショップデザイナー育成プログラム プロデューサー・講師。2008年より、ワークショップデザイナー育成プログラムの立ち上げに携わり、プロデューサーとしてカリキュラム設計、e ラーニング制作を行っているかたわら、ワークショップ、インストラクショナルデザインの研究に携わる。著書には、「ワークショップと学び」2,3巻(共著)など。

演劇目線のまちあるき

日 程：9/28 (Sat)、9/29 (Sun)
会 場：南大塚地域文化創造館
参加費：無料

場所と記憶から「ものがたり」をたちあげることが得意な劇作家、三浦直之を講師に、だれでも参加できる演劇ワークショップを開催。オープニング・プログラムが行われる「大塚」のまちをリサーチ、他の参加者と協働しながら作品をつくりあげる過程を体験します。

講師：三浦直之

口口主宰。劇作家。演出家。王子小劇場で上演された『家族のこと、その他のたくさんのこと』にて口口を旗揚げ。「家族」や「恋人」など既存の関係を問い直し、異質な存在の「ボーイ・ミーツ・ガール＝出会い」を描く作品をつくり続けている。古今東西のポップカルチャーを無数に引用しながらつくり出される世界は破天荒ながらもエモーショナルであり、演劇ファンのみならずジャンルを超えて老若男女から支持されている。ドラマ脚本提供、MV 監督、ワークショップ講師など演劇の枠にとらわれず幅広く活動。

展示

これまでのF/Tの歴史や、F/T19の上演プログラムにまつわる展示をおこないます。

豊島区立中央図書館 9/28 (Sat)～10/24 (Thu)
豊島区本庁舎まるとミュージアム 9/2 (Mon)～11/28 (Thu) (予定)

F/T Books

本を通じてフェスティバルをより深く知り、より楽しんでもらうための恒例企画。参加アーティストやディレクターによるコメントとともに選書・選曲を公式HPや池袋の書店・図書館、劇場ロビーで紹介する予定です。

／ 連携プログラム ／

フェスティバル/トーキョー19と同時期の2019年10月から11月を中心に、都内および東京近郊で開催される催しの中でも、とりわけ高い現代性と豊かなオリジナリティを持つ国内外の演劇やダンス、企画展を、F/T19連携プログラムとして紹介します。

東京塩麴

『新作ライブ（仮）』

作曲：額田大志

10/18 (Fri)～10/19 (Sat)

ST スポット

独自の音楽性を突き進む、人力ミニマル楽団 東京塩麴による完全新作ライブ

様々な音楽の境界線を越えながら独自の音楽性を突き進む、人力ミニマル楽団東京塩麴。本ライブでは新作楽曲で映像とのコラボレーションを行い、「聴く」だけでない音楽体験を劇場空間の中に創出します。

主催：ST スポット
お問合せ：ST スポット 045-325-0411
<http://stspot.jp/>

世田谷アートタウン 2019 関連企画

カンパニー ルーブリエ/ラファエル・ボワテル

『When Angels Fall / 地上の天使たち』

演出・振付：ラファエル・ボワテル

10/18 (Fri)～10/20 (Sun)

世田谷パブリックシアター

フランス現代サーカス界期待のヒロイン、ラファエル・ボワテル最新作！世田谷パブリックシアターに初来日！

これまでのサーカスのイメージを覆し、多くの観客に衝撃を与えてきたカンパニー ルーブリエ。独特な世界観と高度なサーカステクニックに加え、ダンス、演劇の要素もふんだんに取り入れた、エンタテインメント性あふれるミステリアスな舞台をお届けします。

主催：世田谷パブリックシアター
お問合せ：世田谷パブリックシアターチケットセンター
03-5432-1515 (10:00～19:00)
<https://setagaya-pt.jp/>

世田谷パブリックシアター+エッチビイ

『終わりのない』

脚本・演出：前川知大

10/29 (Tue)～11/17 (Sun)

世田谷パブリックシアター

気鋭の劇作家・演出家 前川知大の最新作は神話的世界とSF的世界に挑みます！

始まりもなければ、終わりもない。時間と空間。無限の世界。
命は繰り返され、つねに旅の途中にある。
歴史はいつ始まり、物語はいつ終わるのか。
旅、世界、物語。終わりのない。

主催：公益財団法人せたがや文化財団、エッチビイ
お問合せ：世田谷パブリックシアターチケットセンター
03-5432-1515 (10:00～19:00)
<https://setagaya-pt.jp/>

早稲田大学演劇博物館 2019 年度秋季企画展

『コドモノミライ—現代演劇とこどもたち』

10月下旬～2020年1月(予定)

早稲田大学演劇博物館2階 企画展示室

入館料：無料

激動する社会を生きるこどもたちのために、今、演劇という表現に何ができるのか？

「こども」や「青少年」をテーマとする日本の現代演劇の展示を開催します。会場には、舞台写真、映像、ポスター等を展示。演劇を通してこどもたちを取り巻く問題について考えるとともに、こどもたちが希望を持ち、未来へと向かうために、演劇に何ができるのかを探ります。

主催：早稲田大学演劇博物館・演劇映像学連携拠点

お問合せ：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 03-5286-1829

<https://www.waseda.jp/enpaku/>

早稲田大学演劇博物館 特別展

『人形劇、やばい！』

10月下旬～2020年1月(予定)

早稲田大学演劇博物館1階 特別展示室

入館料：無料

かつて、最も過激なメディアであった人形劇は、時代に翻弄され、大衆を狂わせもした。

なぜ人形なのでしょうか。日本の近現代人形劇に焦点をあて、実際に使用された人形その他貴重な関連資料により、各時代において人形劇に期待された／人形劇が背負わされた使命や機能—その魅力と危うさ—を探ります。

主催：早稲田大学演劇博物館、
新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」
プロジェクト実行委員会

お問合せ：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 03-5286-1829

<https://www.waseda.jp/enpaku/>

エンパク★こどもプログラム リーディング公演&トークセッション

劇団フライングステージ

『こどものためのフライングステージ』

作・演出：関根信一（劇団フライングステージ代表）

トークセッション進行：飛田勘文（早稲田大学演劇博物館助教）

10/23 (Wed)

早稲田小劇場どらま館

参加費：無料（要事前予約・定員を超える場合は抽選）

応募期間：9/11 (Wed) 10:00～9/25 (Wed) 17:00

小学校が舞台のLGBTを題材にした演劇。ある男の子が学芸会で女の子の役を演じたいと言い始めて……

ゲイの劇団フライングステージが、こどもと大人を対象にした新作「アイタクテとナリタクテ」を上演します。公演後のトークセッションでは、「こどもと演劇」についてセクシュアリティの視点から考えます。

主催：早稲田大学演劇博物館、
新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」
プロジェクト実行委員会

お問合せ：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 03-5286-1829

<https://www.waseda.jp/enpaku/ex/8804/>

Dance New Air 2020 プレ公演 サイトスペシフィックシリーズ Vol.3

『no room』

ハラサオリ

11/1 (Fri) ~ 11/4 (Mon)

慶應義塾大学三田キャンパス 旧ノグチ・ルーム

空間／時間における即物的身体の在り方を探求する気鋭アーティスト、ハラサオリの最新作

ダンスの国際フェスティバル「Dance New Air」のサイトスペシフィックシリーズ。慶應義塾大学に存在するイサム・ノグチが手がけた特徴的な空間の歴史を紐解きつつ、ダンス・音楽・美術・ファッション・写真の視点から新たな魅力をあぶり出す。

主催：Dance New Air 実行委員会、一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ
お問合せ：Dance New Air (一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ)
info@dancenewair.tokyo
http://dancenewair.tokyo

青年団若手自主企画 vol.79

ハチス企画

『まさに世界の終わり』

作：ジャン＝リュック・ラガルズ 演出：蜂巢もも (グループ・野原)

11/8 (Fri) ~ 11/24 (Sun)

アトリエ春風舎

そのうち、次の年に一僕が死ぬ番になっていたー

フランスで最も上演される演劇作品の一つ。

主人公は不治の病にかかり帰郷するも、家族に打ち明けることが出来ない。愛しているのに傷つけ合う不器用な家族の姿は現代社会を投影する。

2016年にグザヴィエ・ドランによって映画化され注目を集めた。

主催：(有)アゴラ企画・こまばアゴラ劇場
お問合せ：青年団 03-3469-9107
(12:00~20:00)
ハチス企画 <https://www.hachisu-kikaku.com/>

ダンス・ショーケース

『吉祥寺ダンスリライト vol.1』

総合ディレクター：北尾亘 (Baobab)

出演：貝ヶ石奈美、水中めがね∞、田村興一郎、Von・noズ (五十音順)

11/15 (Fri) ~ 11/17 (Sun)

吉祥寺シアター

「踊る身体」が書き換えるダンスの未来

吉祥寺シアターで新たに始動するダンス・ショーケース型公演『吉祥寺ダンスリライト』。

総合ディレクターにBaobab主宰で振付家・ダンサーとして幅広く活躍する北尾亘を迎え、コンテンポラリーダンス界の次世代を担う新鋭を採り上げます。

主催：公益財団法人武蔵野文化事業団 (吉祥寺シアター)
お問合せ：武蔵野市立吉祥寺シアター 0422-22-0911
http://www.musashino-culture.or.jp/k_theatre/

／ チケット情報 ／

一般発売 2019年9月1日(日) 10:00 開始

先行割引チケット発売 2019年8月28日(水) 10:00～8月31日(土) 17:30
4日間限定で一般前売価格より約30%OFF。枚数限定。

F/T チケットセンター ／すべてのチケットを購入できるのは **ここだけ!**

オンライン予約: <https://www.festival-tokyo.jp/> (24時間受付)

電話予約: 03-5961-5209

開設期間 8/28～11/10 (12:00～17:30、8/28・9/1のみ10:00より受付)
会期中無休、9/2～10/4の期間は土・日・祝日定休

F/T ならではのお得なチケット (主催プログラムのみ対象)

◆ペアチケット

2人で観劇なら一般前売価格より10%OFF

◆3演目セット券

フェスティバルならではの設定券。3演目同時購入でお得に
通常購入より1演目あたり約15%OFF

◆学生・高校生以下チケット(当日券共通)

学生の方には学生料金をご用意
高校生以下の方はすべての演目が1,000円でご覧いただけます

□当日券について

原則開演の1時間前より、各会場受付にて販売。
一般前売料金に+500円
(『Changes』シーズン2を除く)。

□障害者割引について

一般前売および当日券料金から10%OFF、付添いの方(1名まで)同料金。
F/T チケットセンター電話予約および当日券で取扱い。(公演当日受付にて要障害者手帳提示)
※『Changes』シーズン2については池袋HUMAX シネマズにお問合わせください。

□連携プログラムについて

F/T チケットセンターで一部演目の一般前売チケットを販売。その他の券種・当日券については主催者にお問合せください。
取扱期間: 会期終了まで。公演初日3日前の19:00まで取扱い(電話の場合は17:30まで)。

プレイガイド一覧**東京芸術祭チケットセンター**

オンライン予約: <https://tokyo-festival.jp/2019/ticket>
※インターネットでのチケット購入には、芸劇メンバーズへの登録(無料)が必要です。

東京芸術劇場ボックスオフィス

電話予約: 0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00/窓口販売あり)
オンライン予約: <http://www.geigeki.jp/t/>
取扱チケット: 各主催プログラムの先行割引・一般前売・学生・高校生以下
※有料託児サービス TEL: 0120-415-306
(HITOWA キャリアサポート株式会社 わらべうた(土・日・祝日を除く平日9:00～17:00)・要予約)

チケットぴあ

電話予約: 0570-02-9999 (Pコード専用)
オンライン予約: <http://pia.jp/t/festival-tokyo/>
取扱チケット: 各主催プログラムの先行割引・一般前売

としまチケットセンター

電話予約: 03-5391-0516 (休館日を除く10:00～17:00/窓口販売は19:00まで)
オンライン予約: <https://www.owlspot.jp/>
取扱チケット: あうるすぽっと上演公演の一般前売

／ フェスティバル/トーキョー実行委員会・事務局クレジット ／

フェスティバル/トーキョー実行委員会

顧問	野村 萬	(公社) 日本芸能実演家団体協議会会長 能楽師
名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	福地茂雄	(公財) 新国立劇場運営財団 顧問 アサヒビール株式会社 社友
副委員長	市村作知雄 藤田 力 東澤 昭	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 顧問 豊島区文化商工部長 (公財) としま未来文化財団 常務理事/事務局長
委員	尾崎元規 熊倉純子 近藤佳代子 鈴木正美 永井多恵子 渡邊圭介 岸 正人 蓮池奈緒子 米原晶子 長島 確 河合千佳 葦原円花	(公社) 企業メセナ協議会 理事長、花王株式会社 顧問 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 教授 アサヒグループホールディングス株式会社CSR 部門 ゼネラルマネージャー 東京商工会議所豊島支部 会長 公益財団法人せたがや文化財団 理事長 豊島区文化商工部文化デザイン課長 (公財) としま未来文化財団 劇場運営課長 (公財) としま未来文化財団 あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター) 支配人 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事長 フェスティバル/トーキョー ディレクター フェスティバル/トーキョー 共同ディレクター フェスティバル/トーキョー 事務局長
監事	能登絹代	豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー	福井健策、北澤尚登	(骨董通り法律事務所)

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

ディレクター	長島 確
共同ディレクター	河合千佳
事務局長	葦原円花
制作	荒川真由子、松宮俊文、武田侑子、新井稚菜、岡崎由実子、神永真美、平田幸来、 藤井友理、長田崇史、四宮章吾、山縣昌雄、岩間麻衣子、TASKO inc. (小森あや、加藤夏帆)
制作アシスタント	森川清成、金井美希、松波春奈、鈴木千尋
広報チーフ	小倉明紀子
広報	神永真美、岡崎由実子、細川浩伸、植田あす美
票券チーフ	武井和美
票券	河野 遥
渉外	吉田幸恵
経理	堤久美子、株式会社countroom (五藤 真、中山恭一、信國輝彦)
総務	米原晶子、藤島麻希
技術監督	寅川英司
技術監督アシスタント	横川奈保子
照明コーディネーター	木下尚己 (株式会社ファクター)
音響コーディネーター	相川 晶 (有限会社サウンドウィーズ)
アートディレクション	高田 唯 (Allright Graphics)
デザインコーディネーター	北條 舞 (Allright Graphics)
デザイン	山田智美、齊藤拓実 (Allright Graphics)
イラスト	芳賀あきな
PR動画・音楽	東郷清丸 (Allright Music)
PR動画	ダイノサトウ
ウェブサイト	相澤 俊 (株式会社Mtame)
海外広報・翻訳	ウィリアム・アンドリュース
コピーライティング	鈴木理映子
中国プログラム・キュレーター	小山ひとみ

／ 開催概要 ／

名称	フェスティバル/トーキョー19
会期	令和元年(2019年)10月5日(土)～11月10日(日)
会場	東京芸術劇場 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) シアターグリーン トランパル大塚 豊島区内商店街 ほか
プログラム数	主催15プログラム 連携9プログラム
主催	フェスティバル/トーキョー実行委員会 豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、 東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、 東京芸術劇場・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)〕
オープニングプログラム主催 「トランスフィールドfromアジア」共催	文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会 国際交流基金アジアセンター
協賛	アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社資生堂
後援	外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE81.3FM
特別協力	西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、サンシャインシティ、 ジュンク堂書店 池袋本店、株式会社ヒューマックスシネマ、理想科学工業株式会社、有限会社アップリンク
協力	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、一般社団法人豊島区観光協会、 一般社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、池袋西口商店街連合会、 特定非営利活動法人ゼファー池袋まちづくり、ホテルメトロポリタン、ホテル グランドシティ、池袋ホテル会、 サンシャインプリンスホテル、リソルホテル株式会社
宣伝協力	株式会社ポスターハリス・カンパニー、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館



公益財団法人
としま未来文化財団
Toshima Mirai Cultural Foundation

ANJ Arts Network Japan

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

ARTS COUNCIL TOKYO



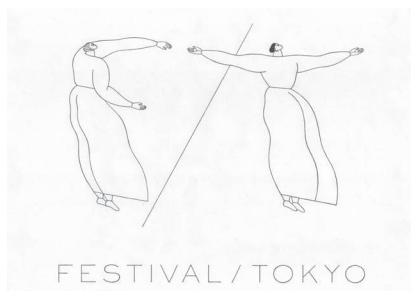
令和元年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業(豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業)
オープニングプログラムは、「2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」として、
文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会との主催により開催いたします。
フェスティバル/トーキョー19は東京芸術祭2019の一環として開催いたします。
フェスティバル/トーキョー19は東アジア文化都市2019豊島と連携して開催いたします。
フェスティバル/トーキョー19は日本・ポーランド国交樹立100周年記念事業に参加しています。

※一部申請中、調整中を含む



F/T ロゴ & モーションロゴ

ロゴ

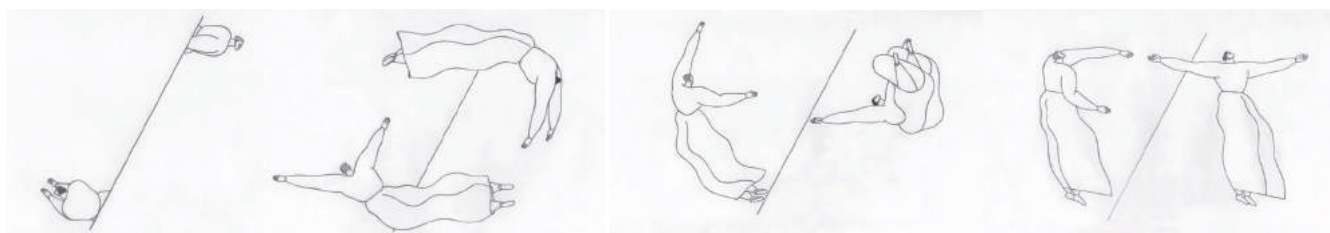


FESTIVAL / TOKYO

アートディレクター・メッセージ

F/Tロゴデザインは、ブランドを保つための強固なロゴ作りの方法とはすこし違うアプローチで新たなステージに存在させたいと思い、視野を広げ未来を想像することから思考をスタートさせました。舞台芸術の、その時その場にいなければ感じられないものを表現することに挑戦しようと検討を重ね、その時の身体から生みだされる形、線によって形成することが重要だと考え「何かにしがみつくことのない、動きのある、変化を受け入れられる流動性のあるロゴ」をイラストレーターの芳賀あきなさんと一緒に作りあげました。F/T事務局の方々と話を交わすたびに彼らの柔軟さと意見に助けられ、さらに意味の深いものになったと感じています。

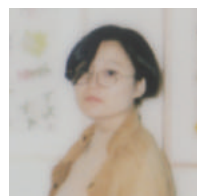
モーションロゴ



アートディレクション：高田 唯 Yui Takada

■プロフィール

アートディレクター、グラフィックデザイナー。1980年生まれ。桑沢デザイン研究所卒。2006年Allright Graphics 設立に参加。2007年活版印刷工房Allright Printing を発足。同年PAPIER LABO. にディレクターとして参加。東京造形大学准教授。



イラスト：芳賀あきな Akina Haga

今回、フェスティバル/トーキョーのモーションロゴの制作に携わらせていただきました。あらゆる人と人との境界線を越えていくこと、関わりを知ること、それから心地よくあることを、ロゴとアニメーションの動きで表現しようと取り組みました。みなさんにもそれを感じていただければと思います。

■プロフィール

イラストレーター、グラフィックデザイナー。

1991年生まれ。桑沢デザイン研究所卒業後、デザイン事務所勤務。2019年独立。



音楽：東郷清丸 Kiyomaru Togo

この度、芳賀あきなさんのモーションロゴと、演目紹介の映像の後ろに流れる音楽をつくらせていただきました。芳賀あきなさんのイラストと、それが動くモーションロゴ、出演される皆さんの資料をみて、今回「からだの速度で」というテーマがありますが、人の体が動くときの生き物としての動くエネルギー、パワーみたいなものを音楽にどう込めていこうかということを考えて音楽を作りました。音の方にも注目していただければと思います。

■プロフィール

1991年横浜生まれ。幼少期からバスケットボールで培った身体感覚と合唱コンクールの指揮者で養ったカンのようなものをベースに16歳頃から作曲を始める。

2017年9月、自らの勤めるデザイン／活版印刷を軸とした会社Allright 内に新たにレーベル“Allright Music”を立ち上げ、11月に1st Album「2兆円」リリース。“APPLE VINEGAR AWARD”ノミネート10作品にも選出される。2018年7月、FUJI ROCK FESTIVALにてROOKIE A GO-GO に出演し、翌年のメインステージ出演をかけた選考の会場投票で1位を獲得。2019年6月、2nd アルバム「Q 曲」をリリース。

F/T の歩み

NPO法人アートネットワーク・ジャパン（ANJ）が2002年から開催してきた東京国際芸術祭（TIF）を、行政機関等との連携の下、「フェスティバル/トーキョー」と名称を変え、2009年に新たなフェスティバルとしてスタート。第1回は春、2回目以降は秋に開催されている。プログラム・ディレクターは、2009年～2013年相馬千秋が担当し、2014年から市村作知雄がディレクターズ・コミッティ代表に就任（2016年からディレクター）。2016年から東京芸術祭の一環として開催。

F/T 開催実績

	F/T09 春	F/T09 秋	F/T10	F/T11	F/T12	F/T13	F/T14	F/T15	F/T16	F/T17	F/T18
	2009年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
名誉実行委員長	高野之夫 豊島区長										
実行委員長	市村作知雄						荻田 伍		福地茂雄		
ディレクター	相馬千秋 プログラム・ディレクター						市村作知雄 ディレクターズコミッティ代表		市村作知雄 ディレクター		長島 確 ディレクター
							小島寛大 副代表	小島寛大 副代表 河合千佳 副代表	河合千佳 副ディレクター		河合千佳 共同ディレクター
会期	2/26-3/29 (32 日間)	10/23-12/21 (60 日間)	10/30-11/28 (30 日間)	9/16-11/13 (59 日間)	10/27-11/25 (30 日間)	11/9-12/8 (32 日間)	11/1-11/30 (30 日間)	10/31-12-6 (31 日間)	10/15-12/11 (58 日間)	9/30-11/12 (44 日間)	10/13-11/18 (37 日間)
主催プログラム数	14	16	15	10	12	16	15 4 企画	15 5 企画	16	14	19
公募プログラム数	-	-	8	11	11	9	-	-	-	-	-
連携プログラム数	5	4	3	6	9	6	11	12	14	12	16
公演回数	127	155	206	241	172	285	336	173	171	179	176
総事業費	約 37,000 万円	約 37,000 万円	約 33,000 万円	約 33,000 万円	約 35,000 万円	約 35,000 万円	約 36,000 万円	約 29,000 万円	約 24,000 万円	約 23,000 万円	約 20,000 万円
のべ総来場者数	約 6 万人	約 6 万 5 千人	約 6 万 5 千人	約 3 万 5 千人	約 4 万人	約 10 万人	約 6 万人	約 6 万人	約 8 万人	約 5 万人	約 8 万 5 千人
参加アーティスト (抜粋/50音順)	鮎屋法水 山海塾 白井剛 蛸川幸雄 平田オリザ 松田正隆 ロメオ・カステルッチ ほか	イ・ユンテク 維新派 黒田育世 タニノクロウ ブルーノ・ベルトラオ 松井周 ラビア・ムルエ リミニ・プロトコル ほか	ジゼル・ヴィエンヌ 高山明 勅使川原三郎 前田司郎 三浦基 ロジェ・ベルナット ロドリゴ・ガルシア クリストフマルターラ ほか	伊藤キム カオス・ラウンジ ジェローム・ベル 杉原邦生 快快 宮沢章夫 ルネ・ボレシュ ほか	アールバード・シリリング 岡崎藝術座 小野寺修二 ジャン・ミシェル・ ブリュイ・エール/LFKs 三浦大輔 ユン・ハンソル ほか	いとうせいこう エルフリーデ・ イエリネク 木ノ下歌舞伎 近藤良平 シアタースタジオ・ インドネシア 梶昇 バック・トゥ・バック シアター ほか	大友良英 白神ももこ 杉山 至 ソ・ヒョンソク ピーター・ブルック 毛利悠子 森川弘和 矢内原美邦 渡辺源四郎商店 ほか	アンジェリカ・リデル 岡田利規 危口統之 多田淳之介 宮城聡 安野太郎 ほか	井手茂太 ジョー・クカサス クリスチャン・ルバ セバスチャン・ マティアス スザンネ・リンケ バク・グニョン 福田 毅 マレビトの会 山本卓卓 ほか	柴幸男 スン・シャオシン チェンティエンジュオ 中野成樹 ピチェ・クランチェン 森栄喜 ワエル・シャウキー ほか	稲織美保 LPACK 坂田紗かり ショブノ・ドル 田中教順 ナナム・スレイマングル ローモルビッチ・リシー ほか

広報に関するお問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
広報：小倉明紀子、神永真美、岡崎由実子

TEL：03-5961-5202 FAX：03-5961-5207
MAIL：press@festival-tokyo.jp

ご掲載の場合の読者の方向けのお問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
TEL：03-5961-5202

本プレスリリースの文字データや、画像等の宣材はこちらからダウンロードいただけます。
<https://www.festival-tokyo.jp/19/2019news/press-programs.html>



※画像のご利用、フェスティバルや作品に関する情報をご掲載いただける折は、事前にご一報いただけますようお願い申し上げます。
※上記ダウンロードサイト内にはない素材に関してはお問い合わせください。
※個別の作品に関わる取材のお申し込み等も承ります。

発行日：2019年7月11日

※記載の情報は、7月11日現在のものになります。
※プログラムの内容等は変更になる場合がございます。